

# Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより

第193号

## ななえ古写真物語 VOL.193

### 横断する校舎

峠下中学校の移転・増築

昭和38年

峠下地区



Nanae Historical  
Museum Collection

茅葺き民家が立ち並ぶ風景。今では見られない景色となったが、かつての七飯町峠下地区は、茅葺き民家が多く残っていた地域でもあった。今も1軒だけ残っているが、上の写真に見られる、まち並みとしての面影はない。そんな峠下地区の紹介となる。

写真を見ると、舗装されたこの道路は、遠くに見える山の稜線から、峠下地区から七飯本町方面に向かって撮影されたもので、間違いなく国道5号だと考えられる。そこを学生帽と制服姿の男子大勢と、ほっかむりをした女性がスコップを持って、何やら作業をしている様子がかがえる。何か災害でもあったのだろうか心配してしまうが、泥土に汚れた国道の清掃のための勤労奉仕であると、「峠下中学校四十三年の歷程 峠」に記されていた。

昭和38年に異動となり赴任した校長が、国道5号よりも落ち込んだ狭い湿地にあり、薄暗い校舎をなんとかできないか、という思いから、地域の人々を巻き込んだ学校の移転・増築へと発展したという。

それは、地域の有志が、峠下教育のためにと用意していた土地に、当時峠下発電所の建設工事で、多量の土砂を掘り出していた土木業者に、その土砂を用いて盛土整地する協力を取り付けた。そして、有志たちはさらに、富原富雄町長へ陳情し工事の許可まで得たという。

早速、峠下地域を中心に、寄付金約61万円を集め、さらには労働奉仕も行って、中学校の校舎拡充へと突き進んだという。上の写真は、おそらく、業者が運搬する土砂が、国道へ広がったのを清掃する様子なのだと考えられる。生徒も大人も一緒になって、目標へ向かっている良き時間を記録したものである。

同書に掲載されたこの写真には「国道を移動する学校」と標記されており、他にも「人力作戦で国道横断の建物」と記された写真も掲載されている。

かなり昔になるが、峠下地区の人に、中学校を校舎ごと、現在、交番のあるところ（旧峠下小学校跡地）から、国道の向かい側へ移動したという話を聞いたことがある。曳家で城を動かす時代ではあるが、にわかには信じられない気持ちと、そんな大胆な時代もあって欲しい、と思ったことを記憶している。

残念ながら、峠下中学校の2階建校舎が国道を横断している写真は見つけれなかったもので、この話が本当なのか否かは、わからないが、少なくとも昭和38年に、校舎を移設するために、地域の方々が力を合わせ、中学校の移転と増設という目的を果たしている。

移設された峠下中学校だったが、生徒数の減少により、平成2年3月に七飯中学校と統合、43年の歴史を終えた。

# 14日 夜の博物館

後期講座第1夜が開講しました。テーマは「ななえ古木巡礼」。市内の巨樹古木を紹介致しました。樹齢150年を超える、赤松並木の歴史を古写真を見ながら振り返り、七飯で一番古い大イチョウ、人工のブナ林であるガルトネルブナ林、倉山卯之助のスギなどそれぞれの樹木の特徴もお伝えしました。長く町の歴史を見てきた樹木が、自然に朽ちてしまったとき、自然の方に選択権を与えることや、住んでいる町の古木を「知る」ことが、保護や継承の可能性を高めることの大切さも、重ねて話しました。



# 23日 ジュニア探検クラブ

「一日学芸員」になったジュニア探検クラブの子どもたち。プログラムで行ったのは、自ら選んだ資料を紹介する展示のお仕事。まずは手法を学ぶところからスタートです。キャプションを置く位置、資料を配置するための空間の捉え方、目線の高さをよく観察します。資料を選び、皆でバランスを考え、ロビー展示を完成させました。ひとりひとりの思いを感じる展示です。ぜひご覧下さい。



# 4月から月曜日に休館日をもうけます。

歴史館は、長らく年末年始の休館日（12月29日～1月3日）を除き、開館していましたが、今年4月より毎週月曜日（祝日の場合は、翌日）が休館日に加わることになりました。ご利用されている皆さんにとっては、ご不便をお掛けすることもあると思いますが、どうぞよろしくお願い致します。玄関や館内にもポスター等で掲示しております。お問い合わせは七飯町歴史館（午前9時～午後5時）までお願い致します。



1	木
2	金
3	土
4	日
5	月
6	火
7	水 夜の博物館後期講座 第3夜
8	木
9	金
10	土
11	日 建国記念の日
12	月 振替休日
13	火
14	水
15	木
16	金
17	土 ジュニア探検クラブ
18	日
19	月
20	火 ピチャリ第194号発行
21	水
22	木
23	金 天皇誕生日
24	土
25	日
26	月
27	火
28	水
29	木

※2月の休館日はありません。

## 三平皿

思い出深い方もいらっしゃるのでは？三平皿は汁物を盛るやや深めの小皿。明治から昭和20年代迄岐阜県で生産され、南樺太まで普及されたそう。



## 編集後記 ~tawagoto~

言葉との出会い。ある直木賞受賞者がこんなことを言っていた。道東のはしっこの町で同級生も少なく、本を読むことが娯楽で、世界が広がった、その経験を伝えたいと。またある作家は、情報過多な社会で失敗することを恐れすぎて、すぐネットの情報に正解を見つけようとする事に疑問があると。「検索するのではない、本をめぐって調べるのだ」と言った人もいた。発する言葉には温度があり、実にシンプルだった。

# ピチャリ ~ピチャリ~

第193号

令和6年1月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp